

聖路加国際病院における学部実習担当者の活動報告

笠井 愛¹⁾ 中村めぐみ²⁾ 高井今日子¹⁾ 吉川久美子¹⁾ 柳橋 礼子¹⁾

Inquiry into the Activities of Nurses in Charge of Practical Nursing Education in Clinical Training for Nursing Students in the St. Luke's International Hospital

Megumu KASAI, RN, PHN¹⁾ Megumi NAKAMURA, MS, RN²⁾ Kyoko TAKAI, MS, RN¹⁾
Kumiko YOSHIKAWA, RN¹⁾ Reiko YANAGIBASHI, MS, RN¹⁾

[Abstract]

At St. Luke's International Hospital, a Nurse in Charge of Practical Nursing Education (NPNE) has been assigned in each unit to provide more effective clinical training for nursing students of the St. Luke's International University, since 2014.

Twenty units accepted students and nine training programs were implemented in 2015. The 56 NPNEs engaged in 2185.42 hours for clinical training activities in total. They spent the longest time for "face to face guidance" (1539.46 hours). On the other hand, only 7.00 hours and 9.49 hours were spent for "providing orientation of clinical training to staff nurses" and "sharing daily information with nurse manager and/or staff nurses", respectively.

Although these results imply that the NPNE put emphasis on "face to face guidance" which is a primary duty, for "support for the achievement of training goals", it is a concern that the NPNE could not spend enough time on another duty, such as "maintenance of the training environment and cooperation with staff nurses".

A future challenge is to improve the clinical training system and the NPNE activities continuously by evaluating the quality of activities.

[Key words] clinical training, the Nurse in Charge of Practical Nursing Education, time for activity

[要旨]

聖路加国際病院では聖路加国際大学看護学部の臨床実習をより効果的に行うため、2014年度から実習受け入れ部署に学部実習担当者を配置した。2015年度の受け入れ部署および実習科目は20部署、9科目であった。学部実習担当者56名の総活動時間は2,185.42時間であり、「学生に対する直接的な指導」に最も多くの時間を費やしていた(1,539.46時間)。一方、「部署スタッフとの実習に関するミーティング」と「看護管理者、部署スタッフとの日々の情報共有」にはそれぞれ7.00時間、9.49時間しか費やされていなかった。この結果は学部実習担当者がひとつ目の役割責任である「実習目標達成のための支援」にあたる直接的指導に重点を置いていることを示唆しているが、もう一つの役割責任「実習環境の整備や部署スタッフとの連携」には十分な時間をかけることができていないことが浮き彫りとなった。今後の課題は活動の質を評価し、実習体制の向上を継続して推進していくことである。

1) 聖路加国際病院看護部・St. Luke's International Hospital, Department of Nursing

2) 聖路加国際大学教育センター・St. Luke's International University, Education Center

〔キーワード〕 臨地実習、学部実習担当者、活動時間

I. はじめに

看護実践能力を培うために、臨地実習は極めて重要であり、より良い臨地実習の体制を作っていくためには、大学の教員と現地の看護職、双方の後輩育成に関する連携と目的意識の共有が重要である¹⁾、とされている。

聖路加国際病院では聖路加国際大学看護学部の様々な実習を長年にわたり受け入れてきた実績があり、学生の指導方法や受け入れ体制については、教員と各受け入れ部署の管理者に一任されてきたが、2014年度の病院と大学の法人一体化を機に、より良い臨地実習の体制を作るための新たな取り組みとして、学部実習担当者の役割を定め、各部署に学部実習担当者を配置することを開始した。

今回、学部実習担当者の役割を紹介すると共に、活動2年目となる2015年度の活動の実態を、活動時間をもとに報告する。

II. 学部実習担当者の配置

1. 役割責任

学部実習担当者を配置するにあたり、その役割責任を「1. 学部実習担当者は聖路加国際大学看護学部の実習カリキュラム・実習目標を理解し、看護管理者とともに効果的な実習となるよう実習環境を整えるよう努める。2. 担当教員および実習部署スタッフとの連携をとり、実習目標が達成できるように支援する」と定めた。

2. 教育

実習開始前には、学部実習担当者を対象に研修会を開催した。

研修会は、実習の概要、教育方法としての臨地実習、学生の特性と留意点、学部実習担当者の役割をテーマとして、大学教員と看護管理者らによる計2時間の講義形式で行われた。

3. 配置

実習を受け入れる各部署から1名以上を選出し、2015年度は20部署の56名が学部実習担当者となった。なお、

2016年度 学部実習担当者活動報告						部署:	実習担当者:			
科目名(実習名称):	ドロップダウンリストあり(選択してください)									
実習期間・学生総数:										
実習指導体制 : 別紙パターンを参照して表に記載する。										
	ドロップダウンリストあり(選択してください)									
年月日	パターン	自分が担当した学生数	*	項目	詳細	時間帯 (実習時間内・外)	所要時間	担当者名	備考	
【注意事項】										
<ul style="list-style-type: none"> 実習単位ごとに、その期間の活動を毎日記載してください 学生の指導体制はパターンを参照して表に記入し、パターンに該当しない場合は体制を記載してください。 実習担当者としての活動内容と自分が担当した学生への関わりも記載してください。 部署に実習担当者が複数いる場合は、部署で用紙を共有し、活動した担当者名を明記してください。 また、役割を代行する場合は、代行者の氏名を記載してください。 活動報告は各実習終了毎に、看護管理室に提出してください。 大幅に指導に時間を要した学生がいた場合は、*印の項にその人数を記してください。 										

図1 学部実習担当者活動報告書

表1 指導体制パターン

パターン1	学部実習担当者（または代行者）は、学生の受け持つ患者全てを受け持っている
パターン2	学部実習担当者（または代行者）は、学生の受け持つ一部の患者を受け持っており、他の看護師が、学生の受け持つ残りの患者を分担して受け持っている
パターン3	学部実習担当者（または代行者）は患者を受け持っているが、学生の受け持つ患者はいない。他の看護師が学生の受け持つ患者を分担して受け持っている
パターン4	学部実習担当者（または代行者）は患者を受け持たず、他の看護師が学生の受け持つ患者を分担して受け持っている
その他	いずれのパターンにも該当しない場合

表2 月別活動時間

月	活動時間(時間)
4	0
5	0
6	256.12
7	52.75
8	0
9	368.74
10	478.87
11	377.49
12	240.64
1	158.39
2	219.92
3	32.5
合計	2185.42

学部実習担当者は部署の看護師配置人数に含まれており、このために各部署の増員は行っていない。

Ⅲ. 活動内容と時間

1. 調査方法

学部実習担当者に、実習別の活動内容と時間、指導体制の概要を「活動報告書」(図1)に入力して毎月報告するよう依頼した。指導体制は、あらかじめ4つのパターン(表1)を明示し、該当するものを選択する形式とした。

2. 結果

1) 活動時間

病院全体での受け入れ実習科目数は9科目、学部実習担当者の活動は4・5・8月を除く9カ月間に及び、月別の集計では、6部署で5科目の実習が行われた10月が最多で478.87時間。総活動時間は2,185.42時間であった(表2)。

表3 実習科目別活動時間

実習科目	活動時間(時間)
総合	166.83
チームチャレンジ	82.25
コミュニケーション	59.79
成人看護学(慢性期看護)	599.34
成人看護学(急性期看護)	696.45
小児看護	253.58
周産期看護	3.68
基礎看護技術	104.66
看護展開論	218.84

表4 活動内容別活動時間

活動内容	活動時間(時間)
実習に関するミーティング(大学教員と)	20.43
実習に関するミーティング(部署スタッフと)	7
担当患者についての打ち合わせ	39.23
学生に対する部署オリエンテーション	83.97
学生に対する直接的な教育指導(患者ケアなど)	1539.46
担当教員との日々の情報共有	40.15
学生の記録物の記載や確認	172.55
看護管理者、部署スタッフとの日々の情報共有	9.49
カンファレンスの運営	68.08
実習評価	10.81
その他	194.25

表5 指導体制別活動時間

指導体制	活動時間(時間)
パターン1	371.62
パターン2	438.34
パターン3	143.25
パターン4	723.25
その他	183.24
無記入	330.32

実習科目ごとの集計(表3)では、7カ月にわたり8部署が関わった成人看護学(急性期看護)が最多で696.45時間であった。うち2部署では、11月に全実習、全部署を通して最多となる66.5時間の報告があった。

活動内容別の集計(表4)では、「学生に対する直接的な指導(患者ケアなど)」が1,539.46時間と最多であり、「実習に関するミーティング(部署スタッフと)」と、「看護管理者、部署スタッフとの日々の情報共有」がそれぞれ7時間、9.49時間と少なかった。

2) 指導体制

活動時間として最も多く報告された指導体制は、パターン4であった(表5)。パターン4とは、学部実習担当者

(または代行者)は患者を受け持たず、他の看護師が学生の受け持つ患者を分担して受け持っている体制である。

IV. 考察

1. 活動時間

学部実習担当者は、学生への直接的指導により多くの時間を費やして、実習目標達成のための支援を行い、役割責任を果たそうとしていることが示唆された。一方で、実習環境の整備や部署スタッフとの連携につながると考えられる、部署スタッフとのミーティングや情報共有に関する活動時間が少なく、十分な環境整備や部署としての学生への支援が行われたかが懸念される。実際、実習後に、「部署のスタッフの実習への関与が薄かった」「もっと他のスタッフの協力を得ればよかった」などの意見が実習担当者から聞かれたこととも、合致する。

また、活動時間に実習科目や時期による変動があることが分かった。実習期間や部署の学部実習担当者の人数にもよるが、増加した活動時間が、時に学部実習担当者への負担となり、実習指導以外の業務に支障をきたす恐れも考えなければならない。

2. 指導体制

活動時間としてパターン4が多く報告されたが、このことだけでは、どのような指導が行われたかの判断はできない。パターン4では、学部実習担当者がその役割に専念していると理解することもできるが、インチャージナースや他の機能別の役割を兼務している可能性もあり、今後の活動報告の方法を検討する必要がある。通常の勤務体制から推察すれば、学部実習担当者を実習指導の

みに専念できるようスケジュールするには、多くの部署で何らかの工夫を要するであろう。

3. 今後の課題

どの実習に、どの部署の実習担当者がどれ程の活動時間を費やしているかは明らかになったが、時間の多寡と活動の質を直接的に結び付けることは難しい。今後は、質と合わせて学部実習担当者の活動を評価していく必要がある。また、2016年度よりCNE (Clinical Nurse Educator) 5名が病院内での活動を開始し、直接的な実習指導だけでなく、部署スタッフへの実習目標の理解促進や学部実習担当者同士の連携サポートなども既に行っている。彼らの働きがどのように実習体制の向上に反映されるか、新たに期待される役割が何であるかを検討しつつ、継続して活動を推進していきたい。

V. まとめ

配置開始2年目となる、学部実習担当者の役割、活動内容、活動時間を報告した。活動の質の評価が次の課題であるが、既に、実習での良好な経験を理由に実習先であった部署を希望して就職する元学生が散見されている。病院としての実習体制向上への取り組みの成果と受けとれる。

引用文献

- 1) 文部科学省. 看護教育のあり方に関する検討会報告 Ⅲ 臨地実習体制と新卒者の支援. [参照2016-10-28]. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm#top.